

全日本ろうあ連盟は新しい可能性に挑戦します

- (1)ろう者が差別や偏見に悩みながら人間として生きていく姿を描き、観る人に多くの感動と勇気を与えていきます。
- (2)たくましく生きるろう者の姿から、ろうの子どもたちに夢と希望を、そしてその子どもたちの親に元気を与えていきます。
- (3)ろう者が脚本を書き、監督を行い、映像をつくります。ろう者の言語である手話、手話に伴う独特の表情、体の動きを演技の中に取り入れていきます。新しい表現方法や可能性を見出し、独自の映像文化を創造していきます。

* 映画製作基金ご支援のお願い *

全日本ろうあ連盟は、これまでの60年間、支えていただいた方々に感謝の気持ちを込めて、創立60周年記念事業として『ゆずり葉』というタイトルの映画製作を企画しました。映画監督・脚本にろう者である早瀬憲太郎氏、さらに総合プロデューサーに庄崎隆志氏、メインキャストにろう者の俳優、独自の視点による映画を製作し、2009年6月に上映初日を迎えることを目指しております。

『ゆずり葉』という映画は、障害者を排除した法律の欠格条項撤廃運動(222万人の署名運動等)を再現しながら、家族の絆を通してろう者の生き様を多くの人に理解していただき、また生きることの素晴らしさ、夢と感動を与える内容になっております。当連盟創立60周年記念事業ということで本格的な映画を目指しておりますが、プロの映画制作スタッフや撮影機材、セット等の準備、字幕製作など、この映画製作にはたくさんの資金を必要としております。より充実した映画製作を展開していくために、自助努力はもちろん広く皆さまからのご支援・ご協力を賜り、映画製作の基盤が確立できることを願っております。

脚本を自らの手で書き上げ監督を務める早瀬憲太郎氏をはじめ映画製作に関わるスタッフの勇気ある挑戦をぜひ応援していただきたくここに賛助金を募ります。映画完成の喜びを共に分かち合いたく存じます。また全国に上映会を展開させその収益金で、地域におけるろう者・重複障害者の就労・生活支援、重複障害者施設建設・運営支援、手話の普及等活用していきます。皆様からの温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

●ご寄付いただいた方には

- パンフレット等に氏名を掲載します。
- 全国共通鑑賞券(試写会含む)を2枚提供します。
- パンフレットを1部贈呈します。
- サイン入り脚本を1部贈呈します。

君は知らない
いつも緑を絶やさないあの木は
四季を巡る思いの中で
先達から若いものへ
受け継がれ生きていく
それは「ゆずり葉」という



【ゆずり葉の木】

ユズリハ科の常緑高木。葉は長楕円形でつやがあり、裏面は白緑色で、柄は赤く、枝先に集って互生する。新葉が出てから古い葉が落ちるので、新旧相ゆずるといふ縁起を祝って新年の飾り物に使う。

60年の歴史をもつ
全日本ろうあ連盟が
皆さんに夢と勇気を贈ります



「ゆずり葉」
映画製作を
応援してください



全日本ろうあ連盟

創立60周年記念映画製作委員会

ろう者問題の 啓発映画製作に あたって

財団法人全日本ろうあ連盟
理事長 安藤 豊喜

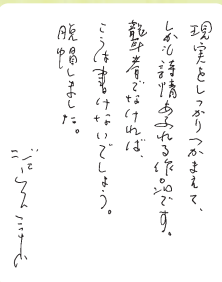
手話を生活言語としているろう者の社会的な理解は、その障害が外見から識別できないこともあって十分でなく、聞こえる人々との交流にも制約があります。情報・コミュニケーションの制約は、判断や決定に問題のある人間との先入観をもたらします。そのために、自動車運転免許を含めた職業資格取得の道が閉ざされていました。私たちは、手話通訳事業の制度化や能力を高めるため教育が整備されれば、あらゆる分野への挑戦が可能であり、社会有用の人材になり得ると訴え続け、その実現をめざしてきました。現在、ろう者も運転免許はもとより、薬剤師、医師免許等の資格取得が可能になりました。

しかし、私たちの社会参加と平等の環境を実現するには、まだ、課題が山積していますので、今後も社会啓発に務めて行かねばなりません。今、高齢少子、IT技術、グローバル化に対応するための改革が推進されています。障害者福祉の分野でも、日本政府が賛成し、署名した国連・障害者権利条約が発効し、手話の言語的な認知や差別の完全撤廃を指標とした取り組みが求められています。この時にあたり、ろう者の過去、現在、未来を映像によって描き出し、国民の皆さんと共感し合い、ろう・難聴児に希望を与え、その親を励まし、ろうの当事者を勇気づける目的をもって、映画制作と全国上映を計画いたしましたので、事情をご賢察くださいましてのご支援をお願い申し上げます。

私たちも応援します!



ジェームス三木



うつみ宮土理
(タレント・小説家)
西村知美
(タレント)
小林綾子
(女優)
豊川悦司
(俳優)
清水きよし
(パントマイマー)
林家正蔵
(落語家)
山本おさむ
(漫画家)

早瀬憲太郎監督からのメッセージ

『ゆずり葉』は実存する木の名前で、若い葉が育ってから古い葉が落ちることから己の代を次の代にゆずる親心を表していると言われていました。これをメインテーマとして人としての思いや信念を人間ドラマとして描き、ろう者も健聴者も一緒に楽しめる映画にしたいと思っています。



プロフィール



奈良県出身。東京都五反田で学習塾早瀬道場を経営。数々のろう児向けのドラマや映画を制作。2006年脚本として制作に関わった映画『迂路(うろ)』(監督:大館信広)がトロントのろう映画祭で最優秀賞に輝く。『カンボジアの風』が第3回さかの聴覚障害者映像祭でフィクション部門賞を受賞。現在NHK教育テレビ「みんなの手話」の講師として出演中。

あらすじ

ある夏の暑い日の工務店。63歳のベテラン大工、敬一(聾)が突然倒れた。入院を拒む敬一は、耳が聞こえず最愛の恋人を病気で亡くした過去を引きずっていた。

それは昭和40年代にさかのぼる。字幕がついていなかった映画を敬一の耳になって通訳してくれた早苗と将来を約束するものの、早苗の両親はろう者である敬一との結婚を決して許さなかった。「私たちにも運転免許を!」ろうあ者の権利を訴える運動の記録映画を撮影していた敬一が夜遅く帰宅したとき、早苗が意識不明で倒れていた。敬一の子どもを身ごもっていた早苗は息を引き取ってしまったのである。

30余年たった1999年、その年は運転免許や民法11条改正などを勝ち取ってきたろう者と手話通訳者の差別法令改正運動が頂点に達した年でもあった。全国からの署名が150万を超えるとき、運動家の大川は早苗の死で中断した記録映画を、この大きなうねりの中で完成させたいと、敬一に続きを撮ってほしいと訴えた。

すでに肺がんに侵されていた敬一は迷った。そんな時、敬一は薬剤師試験に合格しながらも欠格条項により国家資格を却下された尚美(聾)に出会う。また自分の気持ちを舞台上で表現したくてもオーディションになかなか受からないでいる吾朗(聾)にも出会った。

いま自分がやらなくて誰ができるというのだ!このまま何もしないで天国で早苗に合わせる顔があるのか…。

敬一はカメラをもって立ち上がった。記録映画を完成させて次の若い世代に手話と仲間の大切さを伝えていくために。

FAXでお申し込みください
03-3260-8124
1口(2万円)以上ご寄付いただいた方には特典があります

個人()口 【1口:2万円】	計	円
氏名		
所属		
住所	〒	—
FAX		
TEL		

郵便振替にてご送金ください
振替口座番号 00180-2-780147
全日本聾唖連盟創立60周年記念映画製作委員会

〒162-0801
東京都新宿区山吹町130 SKビル8階
財団法人全日本ろうあ連盟内
TEL/FAX.03-3260-8124
URL:http://www.jfd.or.jp/movie/
E-mail: movie@jfd.or.jp